

平成28年度 「大阪市中学校3年生統一テスト」における 港中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市中学校3年生統一テスト」について、平成28年10月6日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

1 テストの目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成29年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校の第3学年
- ・ 港中学校では、第3学年93名

3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

平成28年度「大阪市中学校3年生統一テスト」検証シート

実施日 平成28年10月6日(木)

学校名	港中学校
-----	------

生徒数(人)	93
--------	----

平均正答率（点）

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	59.7	52.1	44.4	47.0	53.0
大阪市	65.4	54.4	56.0	55.0	61.2

結果の概要

市平均より2~12%低い結果となっている。教科により開きがあり、社会は比較的平均値に近くなっているが、数学は差が12%と大きく本校の生徒の弱点である。国語は6%のマイナスであるが記述回答率は例年より高くなっている。理科・英語は8%程度の開きがある。

成果と今後取り組むべき課題

社会ではICTを活用し興味関心を高めた授業の取り組みが一定の成果に結びついている。数学は特に数と式・関数の領域において弱く、基礎的な事項がしっかりと押さえられていない。また記述・短答回答率が低く、論理的に考えたことを順序立てて記述することの着実さに欠ける。どの教科にもいえることだが、「答え」を急ぐあまりそこに至るまでの過程を重視しない傾向がある。授業の中で、答えに至るまでの道筋をはっきり言葉と文章で示す、グループで教えあうなど言語活動を行うことや、「書く」ことを面倒がらず、答えに至る道筋を自分で検証する力を養う必要がある。

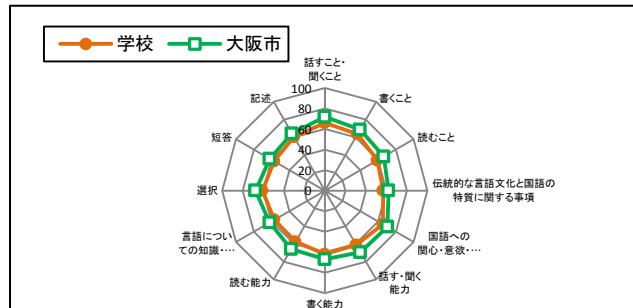
【各教科の正答率分布と領域・観点・問題形式別平均正答率の分布】

【国語】

【正答率分布】

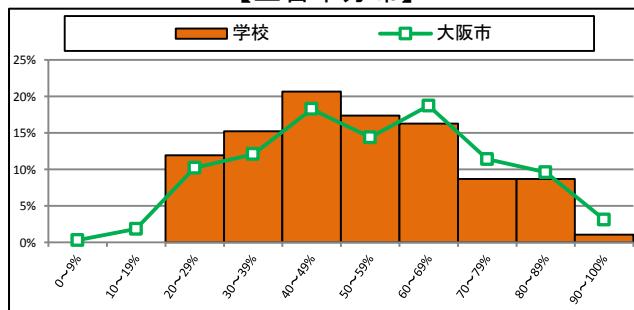


【領域・観点・問題別の分布】

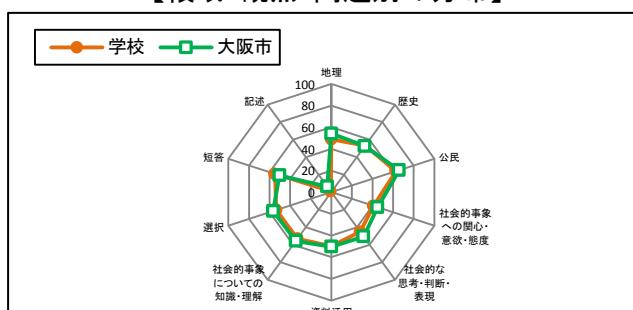


【社会】

【正答率分布】

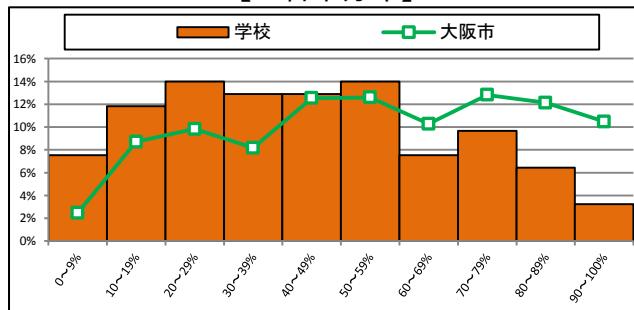


【領域・観点・問題別の分布】

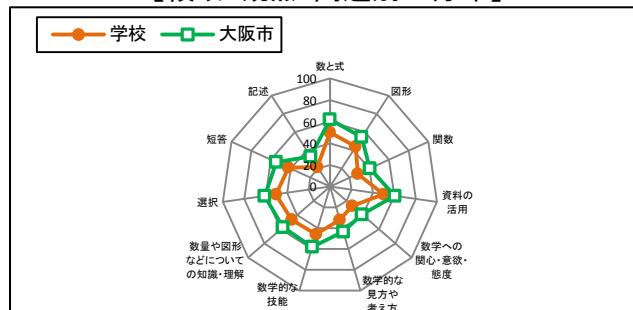


【数学】

【正答率分布】

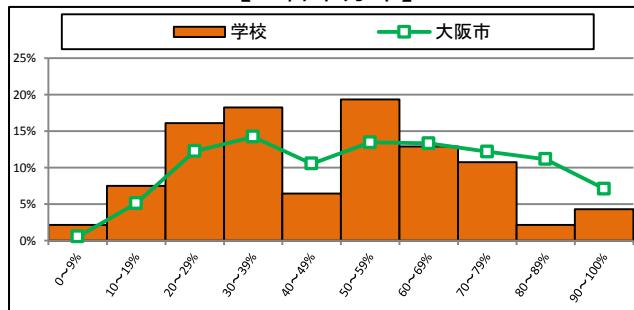


【領域・観点・問題別の分布】

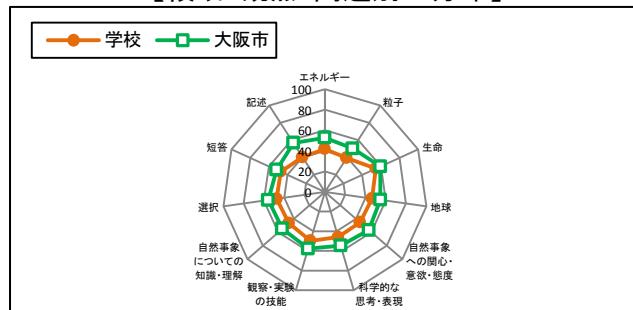


【理科】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

